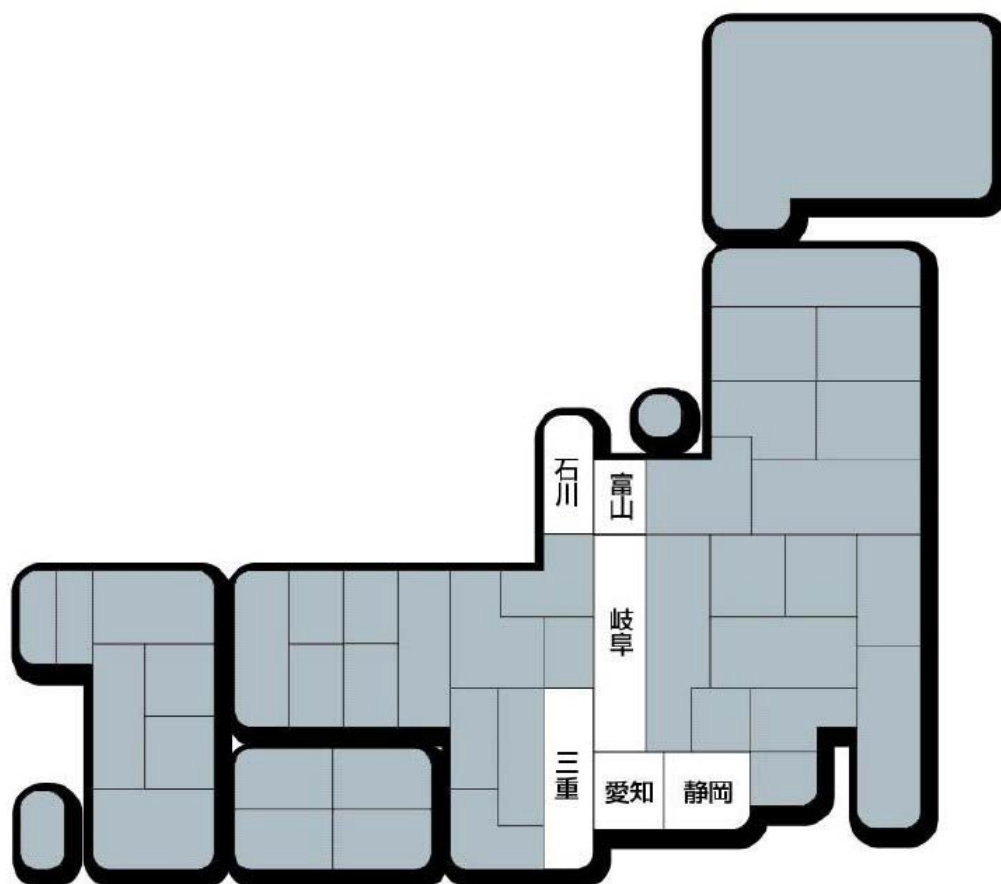


東海北陸国立病院薬剤師会 会誌



THP Tokai Hokuriku National Hospital Pharmacists Association



Vol.26

2021.12

目次

【新会長あいさつ】			
東名古屋病院	高橋 昌明		1
【施設紹介】			
東尾張病院	渡邊 幸雄		2
【委員会報告】			
○教育研修委員会			
静岡医療センター	平島 学		4
○業務推進委員会			
名古屋医療センター	井上 祐貴		6
○学術研究委員会			
静岡てんかん・神経医療センター	山本 吉章		9
【編集後記】			12

東海北陸地区国立病院薬剤師会

会長 高橋 昌明

このたび、東海北陸地区国立病院薬剤師会総会において会長に選任されました東名古屋病院の高橋昌明です。微力ではありますが、会員の皆様のご支援を頂きながら会長の職責を果たせるよう努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

本会は独立行政法人国立病院機構の東海北陸グループ管内 19 施設および国立長寿医療研究センター、国立駿河療養所に勤務する薬剤師により構成されています。

主な活動として研修・研究会を兼ねた総会を年 1 回開催し、教育・学術・業務の各委員会の活動とともに新人研修、臨床研究研修、フィジカルアセスメント研修等を開催しております。

さて新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、会員の皆様におかれましては、ワクチンの管理をはじめ感染症患者の受け入れ、院内感染予防対策等で日々対応に腐心されていることと思います。国立病院機構は国内最大級の医療ネットワークであり、そのネットワークを活かしたうえで皆様方の総力を結集することにより、コロナ過における想定外の様々な課題を克服し、コロナウイルスに打ち勝つことで病院薬剤師のさらなる発展に繋げていきたいと考えております。

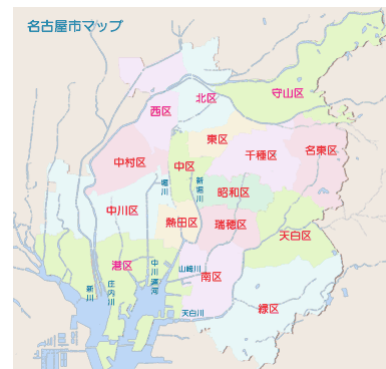
今後とも本会の活動に一層のご理解とご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

東尾張病院薬剤科施設紹介

薬剤科 渡邊幸雄

当院の位置：

名古屋市守山区は東北部位置します。北部は名古屋市のベッドタウン春日井市、東部は瀬戸焼や、将棋の藤井聡太3冠の出身地で有名な瀬戸市に隣接した温暖な丘陵地帯で、空気清澄な療養に適した環境にあります。



標榜：

精神科、児童精神科、内科、歯科

当院の特徴：

愛知県内唯一の国立病院機構精神医療機関として、地域の精神医療の基幹となり、精神保健福祉法及び医療観察法の理念に沿って、精神障害者の人間性や人権を尊重した開放的な高度精神医療を推進しています。

<短期集中医療>

精神科二・三次救急（緊急措置、応急入院指定病院）

精神科（統合失調症・うつ病など）、精神病の急性増悪、急性心因性精神障害、アルコール症及び急性薬物中毒の治療を行っています

<司法精神医療>

心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての専門的な医療を行っています。

<思春期精神障害の治療>

思春期・青年期における、若年発症の神経症及び精神病など十代前半からの精神障害への幅広い治療を行っています。

2020年3月に病棟1つが閉鎖し、3つの病棟+医療観察法病棟1病棟の計4病棟183床があります。

薬剤科：

薬剤科には薬剤師3名と助手1名の4名が勤務しております。処方箋枚数1200枚/月程で、外来はほぼ院外です。日々調剤業務と薬剤管理指導等を行っています。

当院は精神科に特化しているため、精神疾患の患者様に薬剤指導を行っています。

チーム医療では、ICT委員会、NST・褥瘡委員会に薬剤師が参加し、各職種と連携をとりながら活動しています。

当院は電子カルテがない病院です。オーダーリングのみのため、患者情報を病棟カルテで確



認するのが現状です。医療観察法病棟は、精神科共通のシステムが入っておりますが、現状のオーダーリングシステムと連携できないため、紙処方箋を医療観察法病棟で印字し、薬剤科に提出してもらい、調剤を行っています。会議も WEB で行われるご時世ですが、電子化という面ではまだ、まだです。

COVID19：

2021 年はコロナウイルス対応の年であるといえます。コロナワクチンがいつ入るかやきもきしましたが 5 月に当院スタッフもワクチンを打つことができました。入院患者様も 9 月には 2 回目の接種を終了する予定です。コロナ感染治療薬には限りがあり、入手、管理に多くの薬剤師がかかわってきています。当院では、今のところ使用する状況ではありませんが、準備はしっかりしていきたいと思います。

薬剤の供給：

薬剤の流通が悪く、採用薬品を切り替えざるを得ないこと状況が多々ありました。2020 年末小林化工の医薬品製造不正に始まり、日医工が業務停止処分を受けた時は、どの薬局も採用薬の切り替えへの対応が大変であったと思います。ゴールドデンウィーク明けも出荷の一時停止や、出荷調整で納入が滞り、薬品確保のため、時間を取られました。頻繁に薬を切り替えることは治療上、患者さんにとって好ましくありませんが、やむを得ずメーカーを切り替えざるを得ないことがあり、残念な気持ちでいっぱいになります。幸い注射薬は、当院で使用がほとんどなく、抗生剤、補液等年に数回購入する程度なので、特に問題なく過ぎていきました。小さな病院で精神科疾患以外はほとんどなく、割を落ち着いた職場ではありますが、それなりにイベントもあり、みんなで協力しながら働いている当薬剤科です。

当院のマスコットキャラクター



まめなしのキャラクターです。

まめなしは、守山区、瀬戸市などに自生している木です。当院敷地内にも自生し、豆梨と書きます。見た通り小さな梨のような実がなりますが、渋みが強く食用には向かないようです。春には桜に似た白い花をつけます。

花言葉は「変わらぬ優しさ」です。

患者様にも、スタッフにも優しさも持って接しつづけていきたいものです。



当院のまめなしの木

教育研修委員会の活動報告(令和 3 年 10 月)

教育研修委員長

平島 学

新型コロナウイルス感染症は未だ終息の目途がつかず、令和 3 年度教育研修委員会主催で実施を検討していた研修会も対面による集合開催はできませんでした。各学会や地域の研修会もオンライン化が余儀なくされ、もはやそれが当たり前の域にまで達しています。オンライン会議システムを「使ったことがない」「よくわからない」では時代の流れに乗ることができず、また、With コロナ、Post コロナ時代には、学会や地域の研修会はさらに盛んになってくることが予想されます。

教育研修委員会主催で開催する研修会においてもオンライン化を検討するのは必然であり、実現に向けたオンライン研修練習会を通じて、今までの対面による集合開催では考えられないようなオンライン研修ならではの課題に直面し、都度改善点を検討してまいりました。

そのような中、採用薬剤師研修会をオンライン研修の第一弾として準備に着手し、無事に終えることができましたので様子を紹介します。

◆ 新採用薬剤師研修会

開催日時：令和 3 年 7 月 3 日(土)

開催場所：Zoom 使用によるオンライン研修

受講生：新採用者 12 人

これまで毎年、岐阜県のみやまキャンプ場にて 1 泊 2 日、または名古屋医療センターにて日帰りでの新採用薬剤師研修会を行ってきました。しかし、COVID-19 感染拡大により集合研修が困難なものとなり、令和 2 年度は新採用薬剤師研修会を行うことができませんでした。そこで今回、Zoom を用いたオンライン形式での研修会を開催しました。

新採用者全員が、Zoom 等によるオンライン形式の講義を受講したことがある、と事前のアンケートに回答していた通り、問題なくオンライン会議ツールを使いこなしていました。各グループに分かれての個別セッションでは、例年は対面で KJ 法を用いたディスカッションを行っていましたが、オンライン形式でも盛り上がるのか、上手く話し合いが進むのかなど、多くの懸念がありました。オンライン特有の会話形式やラグにより、話し合いのし辛さはあったようですが、結果として例年と比べても遜色ない成果を生み出すことができていました。

システムトラブルの可能性が常に付き纏うこと、一部のスタッフに多大な負荷がかかることなど、検討課題は散見されますが、オンライン形式でも少人数に分かれてのグループワークおよび全体セッションでの発表、検討を実施出来たことは、ひとつの大きな成果であると考えます。現在の状況がすぐに好転する可能性は残念ながら低いと考えられるため、今後もオンラインでの開催を余儀なくさ

れる状況が続くと見込まれます。たとえ画面越しであっても、同じ機構の仲間がいること、その繋がり
の大切さや貴重さを伝えることができるような研修会を目標の1つとして、継続していきます。

採用薬剤師集合写真



全体集合写真



業務推進委員会活動報告(令和 3 年 10 月)

業務推進委員会委員長
井上 裕貴

業務推進委員会は、今年度より新しい体制で活動して参りました。以前からの活動を継続的に引き継いでいくことと委員のみなさま全員で参加できるような体制作りを試みました。研修や業務量調査などの目的をより明確にするために委員会を「業務向上小委員会」、「業務改善小委員会」、「業務共有小委員会」の小委員会に分類し活動しております。

今回は 2021 年 4 月から 2021 年 9 月までの各小委員会からの活動報告をさせていただきます。

《業務推進委員会コアメンバー》

委員長	井上 裕貴(名古屋医療センター)
副委員長	田淵 克則(金沢医療センター) 後藤 拓也(名古屋医療センター) 山内 貴子(名古屋医療センター)
小委員会委員長	安藤 舞(名古屋医療センター) 安達 尚哉(富山病院) 稲垣 雄一(榊原病院) 垣越 咲穂(豊橋医療センター) 酒谷 健斗(北陸病院) 竹田 あかね(名古屋医療センター) 藤居 昂生(石川病院) 森下 拓哉(三重中央医療センター) 細江 慎吾(豊橋医療センター) 脇田 恵里(豊橋医療センター)

◆業務向上小委員会◆

小委員長:安藤(名古屋医療センター) 竹田(名古屋医療センター) 酒谷(北陸)

① THP THE プレアボイド大賞 WG

この小委員会では、各施設の優良プレアボイド情報を収集・共有することで、日々の薬剤師業務内容の参考・向上につなげることを目的としています。

2021 年 6 月には、第4回 THP THE プレアボイド大賞の優秀なプレアボイド大賞の結果を発表させていただきました。以下のご施設には表彰状と副賞をお送りさせていただきました。会員の皆様は事例を確認いただき、日々の病棟業務などにご活用いただきますようお願いいたします。

副作用の重篤化回避	【MVP 賞】三重中央医療センター 食欲不振の訴えからウブレチドによるコリンクリーゼを疑い、ChE 採血依頼、看護師に脈拍測定を依頼、医師に報告し治療に貢献した症例 【優秀賞】長寿医療センター
-----------	---

	アルツハイマー型認知症で BPSD 薬剤調整のため入院された患者さまが、病院ホールで傾眠状態のところを発見、バルプロ酸 Na による副作用を疑い中止を提案した症例
副作用の未然回避	【MVP 賞】三重中央医療センター インスリン負荷試験におけるヒューマリン R の希釈指示間違いを未然に防ぎ、10 倍量のインスリン投与が回避できた症例 【優秀賞】静岡てんかん神経医療センター 結節性硬化症のためエベロリムス開始、CYP3A4 誘導剤であるカルバマゼピンも併用していることから血中濃度の矛盾を指摘し適切な投与設計ができた症例
薬物治療効果の向上	【MVP 賞】三重中央医療センター 化学療法施行予定患者のスクリーニング検査でHBs抗原陽性が判明し、消化器内科コンサルトとエンテカビルの内服提案を行った症例 【優秀賞】長良医療センター ドパストン注で治療中の患者様が転院され、経鼻への変更に伴いドパストン散が処方されたが、紹介状の確認から転院前にはカルコーバ配合錠で症状が落ち着いていたことを確認し、メネシット配合錠へ処方変更を提案した症例

THP 第 5 回 THE プレアボイド大賞も年明けより事例を収集させていただきますので、ご協力よろしくお願ひします。

※今年度からこれらの事例も、学術研究グループと共有して症例報告などの報告に活用させていただきます。

◆業務改善小委員会◆

小委員長：細江（豊橋医療センター） 脇田（豊橋医療センター）

① 働き方改善 WG

この WG では、家庭を持った女性薬剤師が働きながら業務をどのように両立させているかをインタビュー形式で聞き取りを行います。その内容を THP 会員で共有し、働き方を参考にし、会員で考えていくことを目的としています。

家庭を持たれている薬剤師の先生だけでなく、これから家庭を築かれる予定の先生方にもご一読いただき、今後の働き方の参考の一例としていただければと思います。

「NHOママ薬剤師(Pharmama)に聞く Vol.5」を 5 月に発刊させていただきました。

THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

◆業務共有小委員会◆

小委員長：安達（富山病院）、垣越（豊橋医療センター）、藤居（石川病院）、稲垣（榊原）、森下（三中央）

① 薬薬連携 WG

この WG では、THP 会員各施設の実情や地域の医療状況に応じて、医療機関と薬局が相互に円滑な連携を図り、患者さんが地域で継続性のある適切な薬物治療等を受けられるように、薬剤師がどのように貢献すべきか検討することを目的としています。

今年度は、令和 2 年度の診療報酬改定において新設された「退院時薬剤情報連携加算（60 点）」について取り組みを行っている施設の運用方法をご紹介させていただくことになりました。現在対象の施設に組み込みをご紹介いただくための資料をご依頼させていただいております。今年度中には会員の皆様にはご紹介させていただきたいと思っております。

② COVID-19 対応

コロナ感染対策に伴う、薬剤部の業務体制、感染予防対策、治療体制などの対策を情報共有し各施設での対策にお役立てできるように資料を収集しました。

今年度は、「COVID-19 ワクチンの問い合わせについて」と題して、各施設にアンケートさせていただきました。ご協力いただきありがとうございました。なお、現在も継続調査中です。COVID-19 ワクチンの問合せを受けられた方は、<https://forms.gle/tBmJdNbdLdGXnmk9> より記載をいただきますよう宜しくお願いいたします。

また、ご覧になっていない会員の方は、THP HP 業務推進委員会書庫（下記リンクから会員ページに入ってください）より臨時的にフォルダを作成しましたのでご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/> よりログインしていただき、書庫⇒業務推進委員会⇒（赤い矢印をクリック）⇒新型コロナウイルス感染対策関連 に格納しております。

③ チーム医療

率直に、他の施設はどうしているのだろう、といった疑問について、他施設の担当者に相談頂くためのツール等にご活用頂ければと思います。

このような背景で取り組んでおりますので、相談を受けた先生方も、是非ご協力のほど宜しくお願いします。

以上、委員会報告となります。

業務推進委員会では、少しでも THP 会員の業務遂行能力の向上や業務の効率化、業務の共有につながればと考えております。お時間あるときに HP をご覧いただき、会員の皆様の業務にお役立ていただきますようお願いいたします。

2021年9月27日

令和3年度前期学術研究委員会活動報告

学術研究委員会委員長 山本吉章

1. 令和2年度 学術小委員会活動実績 多施設共同研究 継続

- 1) 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の疼痛緩和治療に関する現状調査
代表：座光寺伸幸（静岡医療センター）、石田奈津子（金沢大学）
- 2) 薬物間相互作用によって誘発されるポリファーマシー
代表：山本吉章（静岡てんかん・神経医療センター）
- 3) 病棟薬剤師の手指衛生に対する意識向上を目指した多施設共同研究 ―教育学的介入による効果の検討―
代表：尾納明里紗（豊橋医療センター）、山本高範（三重中央医療センター）

完了

- 1) 高齢者のポリファーマシー発生要因に関する後ろ向き多施設共同研究
代表：早川裕二（長寿医療研究センター）
- 2) ダプトマイシン（DAP）の高用量の安全性について
代表：上田真也（静岡医療センター）

2. 令和2年度会員研究実績（2020年4月～2021年3月）

1) 国内外学術誌掲載（査読あり）

- ・ 朝居祐貴 「Combination therapy of midodrine and droxidopa for refractory hypotension in heart failure with preserved ejection fraction per a pharmacist's proposal: a case report」 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 2021;7:10.
- ・ 朝居祐貴 「Factors influencing the effectiveness of recombinant human soluble thrombomodulin on disseminated intravascular coagulation: a retrospective study」 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 2020; 6:26
- ・ 朝居祐貴 「Stanford B型大動脈解離での血圧コントロールにおいて偽性高カリウム血症の診断によりアジルサルタンの投与中止を防いだ一症例」 日病薬雑誌, 2021; 57: 187-191.
- ・ 朝居祐貴 「慢性腎臓病患者における経口抗微生物薬の適正投与量を目指した処方監査システムの構築」 THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS, 2020; 73: 55-63.
- ・ 上田真也 「菌血症が疑われた患者に対するTazobactam/Piperacillin長時間投与の有効性」 医療薬学 2020; 46: 272-278.
- ・ 鈴木亮平 「地域包括ケア病棟におけるファーマシューティカルケア ―薬物療法の最適化に向けた取り組みと評価―」 医療薬学, 2021; 47, 61-69.
- ・ 有原大貴 「高齢者へのナファモスタットメシル酸塩の投与による高カリウム血症発現リスク」 医療薬学, 2020; 46, 561-566.
- ・ 早川裕二 「高齢者におけるポリファーマシーと関連する処方背景の後ろ向き多施設共同研究」 日本老年薬学会雑誌, 2020; 3: 35-40.
- ・ 山本吉章 「Pharmacokinetics, tolerability, and clinical effectiveness of perampanel in Japanese patients with epilepsy」 Seizure, 2020; 83: 181-186
- ・ 山本吉章 「Therapeutic monitoring of lacosamide in Japanese patients with epilepsy: clinical response, tolerability, and optimal therapeutic range. Ther Drug Monit, 2020; 42: 754-759
- ・ 山本吉章 「Impact of CYP2C19 phenotypes on clinical efficacy of stiripentol in Japanese patients with Dravet syndrome」 Ther Drug Monit, 2020; 42:302-308

3. 令和3年度 学術研究委員会コアメンバー会議

出席者：山本吉章（静岡てんかん・神経医療センター）、平野淳、近藤芳皓（名古屋医療センター）、山本高範、朝居祐貴（三重中央医療センター）、有原大貴（金沢医療センター）、早川裕二（国立長寿医療研究センター）、鈴木亮平（東名古屋病院）、尾納明里紗（豊橋医療センター）、田代匠（静岡医療センター）、大月慎之助（医王病院）

日時 令和3年4月21日（水）～令和3年4月26日（月）

開催方法 メール回覧

1)研究実績調査

令和3年度の論文数は11報であった。論文を発表した5名の先生に論文賞を贈呈する（ギフトカード5000円、委員長は発案者のため対象外）。筆頭著者だけでなく共著者も表彰の対象とする。

2)研究会報告

令和2年度に行ったWebの研究会のアンケート結果のフィードバックを行った。研究発表会は3時間超となったため「やや長い」との回答がやや多かった。質疑応答に関しては、発表者が質問内容を理解し落とし込む時間的余裕が必要。発表者と質問者が意見を交換できる時間を作る。研究会を2期に分ける意見もあったが、負担を考えると実施は難しい。

3)令和3年度 小委員会活動計画

今年度も共同研究を継続し、新たな研究を募る。特にがんや感染の領域は将来の専門薬剤師の育成のため重点的に募集する。

4)事業計画

実施体制

令和3年度より体制を変更した。今年度から近藤先生（名古屋医療）、有原先生（金沢医療）、尾納先生（豊橋医療）、田代先生（静岡医療）、大月先生（医王病院）が新たにコアメンバーとして加わった。林先生（名古屋医療）、舟瀬先生（富山病院）は今後も学術委員として会の運営をサポートいただく。

研究会

10月に日本医療薬学会年会の研究討論会（現地+Web開催）、2月に研究発表会（Web開催）に加え症例カンファレンス（Web開催）を行う。症例カンファレンスは、副作用症例、ブレイクド事例、特殊な薬剤（希少疾患や新薬）の使用経験、特殊な患者背景以外にケースシリーズや病棟での取り組みについても発表対象とする。休日以外に平日の業務終了後の時間帯を検討する。

研究の発案、学会発表、論文作成 ステージに沿った勉強会の企画、研究会の中で論文賞受賞者の経験談をレクチャーする。学術委員会で研究フローチャート（初学者向けにどのような学会に入会し発表すればよいのか？論文作成までにすべき事）を作成する。

研究クラウド

初めて研究を行う会員が参考にできるよう学会発表された抄録、スライド・ポスター、倫理委員会申請用の研究プロトコルを収集し閲覧可能な書庫を作成する。

5)令和3年度予算案

令和2年度の支出は56,554円であった。令和3年度は、日本医療薬学会年会の研究討論会（現地+Web開催）の会議室使用料、研修シールの申請料、景品等で155,000円の予算を計上した。このため令和3年度は理事会からの活動費を受けずに委員会を運営する。

4. 令和3年度 前期活動報告

1) 第1回 THP 合同症例カンファレンス

日時：2021年7月6日（火） 18時～19時
場所：Zoomによる口頭発表

座長： 名古屋医療センター 近藤芳皓

1. 鎮痛剤補助薬を併用してオピオイドの使用量を減量できた症例

金沢医療センター 杉田郁人

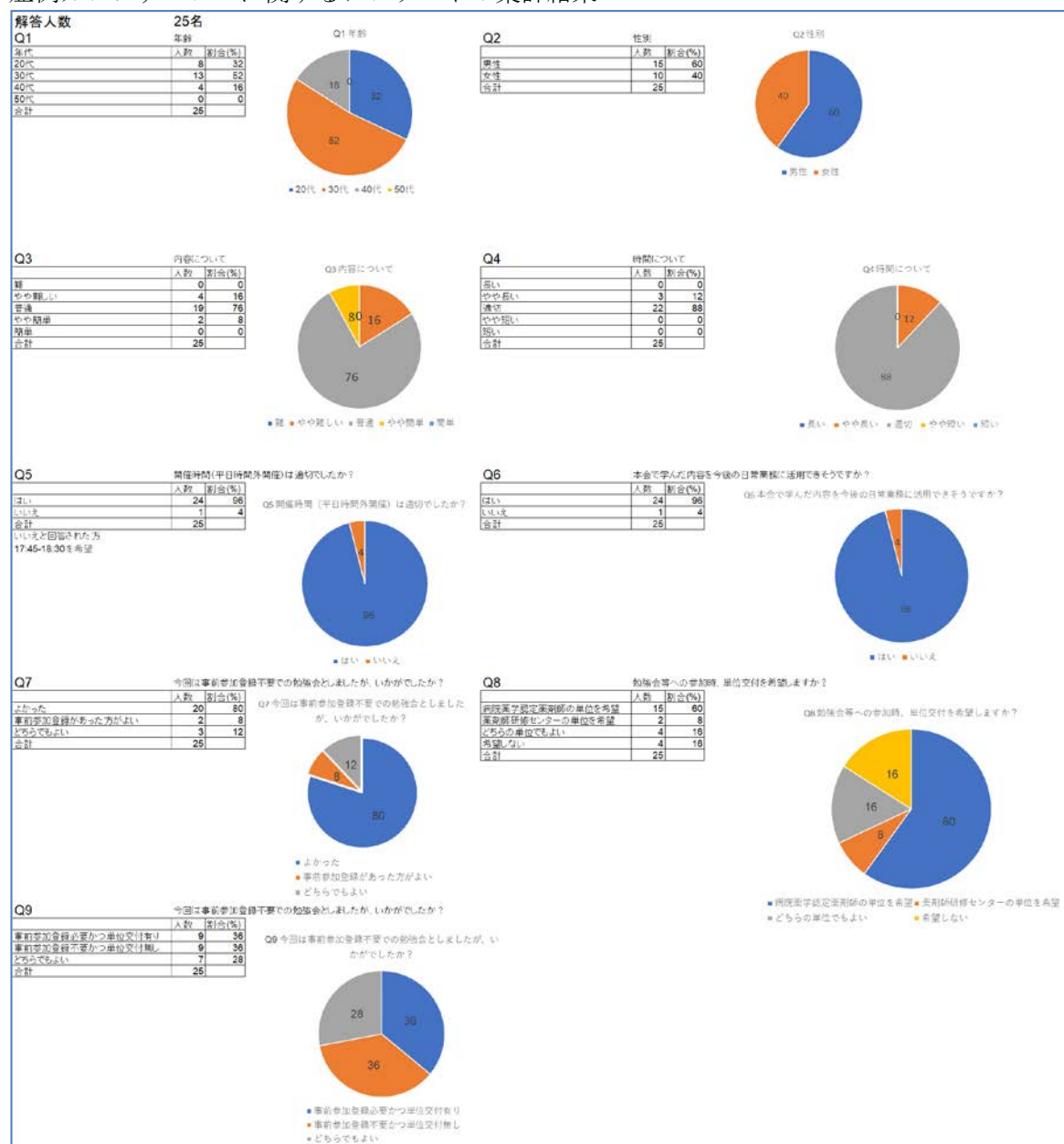
2. 妊娠・出産における抗てんかん薬の血中濃度変化を経験した2症例

三重中央医療センター 春田桃歩

3. 神経筋疾患難病における薬剤師の委員会での役割

医王病院 大月慎之助

症例カンファレンスに関するアンケートの集計結果



編集後記

Vol.26 を発行します。

今回の会誌では、総会にて新しい理事会役員が承認されましたので、
巻頭言ではなく新任の高橋会長のあいさつを掲載しております。

また、本年度のTHPの活動の一つとして前年度より持ち越しとなっていた
「東海北陸国立病院薬剤師会における委員会運営費利用規程」についても
臨時総会にて議決することができたところですが、
規程については、THPホームページの書庫に保管しましたので、
ホームページの利用についてもお願いしたいと思います。

東海北陸国立病院薬剤師会会誌 第 26 号 令和 3 年 12 月発行

発行元 東海北陸国立病院薬剤師会

(独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター薬剤科内)

発行人 会長 高橋 昌明 (東名古屋病院)

編集 広報担当理事 三井 陽二 (七尾病院)

